

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	令和3年2月17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2272100377-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2272100377-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年3月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「共に生き、共に楽しみ、共に笑う」ことを大切にし、利用者様のもう一つの我が家になれるよう努めています。9名なので、お一人お一人と向き合うことができ、その方に合わせた対応を行っています。事業所は高台の住宅地にある為、普段は静かですが休みの日には子供の元気な声が聞こえてきます。また四季折々の富士山を眺めることができます。室内は居心地の良い雰囲気づくりと過ごしやすい空間づくりを心がけています。近隣住民との関りもあり、声をかけて頂いたり、差し入れをいただくこともあります。地域との協働の面では、ほっとするお茶会を開催しています。「今日も楽しかった」と思っていただけの生活が送れるよう、全職員で取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念を意識するためにも、「始業時の唱和は気持ちの切り替えもでき、より良いケアに実る」として昨年度の外部評価を通じて目標と定め、「始業時間も異なるので、職員が個々に理念の確認がおこなえるよう、ロッカー ルームにも掲示した」と、達成のための取組みが確実にできる事業所です。そういった小さなことを多面的な視点を以ておこなうため、理念「ひまわりのような笑顔で自由な明るい生活ができるよう支援します」も一層の浸透が図られ、月ごと、季節ごとの行事一つひとつに、9名の姿が写り、笑顔あふれる生活の様子が一目瞭然です。訪問中も、終始笑顔で利用者に語りかける職員の姿がそこかしこに在り、安心に満ちています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある、「ひまわりのような笑顔」を大切に、お互いに笑いあえる楽しい生活の場を提供できる様、取り組んでいます。ロッカールームに理念を掲示し、出勤時には各々が読み上げてから日々の仕事に向き合うようにしている。	外部評価を通じて理念の浸透について目標設定しています。すでに浸透は図られていたものの、確実な仕組みとしたことで、意識が更に高まり、終始笑顔で利用者に語りかける職員の姿が在ります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方々には事業所の理解をいただいております。温かい見守りや手厚い協力をいただいている。地域との協働の面で、ほっとするお茶会の開催をしている。近隣の方には認識していただき、浸透していると思う。	隣りが代表者の自宅ということから、昔ながらの近所付き合いを事業所も享受しています。差し入れも日常的にあり、今年はサツマイモのおすそわけから焼き芋大会に至り、近所にも焼きたてを配って廻っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員にキヤラハンメイドがいる為、地域から認知症サポーター養成講座の協力依頼があるときはできる範囲で参加させていただいている。また地域の方から相談があった時には、自分たちの経験と知識をお伝えさせていただいている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この一年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催となっている。書面には、会議の場でお伝えしたいことをできるだけ詳しく書いている。会議を行っていた時は情報・意見交換もとても多く有意義だった。書面開催でももう少し近づける様努力したい。	コロナ禍となり、運営推進会議は隔月ごとの書面開催としています。2ヶ月の活動状況をまとめ、市役所と地域包括支援センターには直接窓口まで出向いて届け、地域代表には郵送しています。	行政には書面確認のうえ、出席簿に押印・欠席理由の記載を求めており、条例に適切に準じていますが、できればメンバーにも意見を求める(電話・FAX)と、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の人員配置やサービス面などで困った事がある時には、市の担当窓口にご相談し、事実把握や解決策のご提案をいただいている。推進会議の場がないため、以前よりお話しすることが減ってしまっているが、市役所に出向いた時にはお声がけをさせていただき関係の継続を心がけ	分からないことや相談事は電話ではなく、直接窓口で相談するようにします。いつでも、大変丁寧に教えてもらえ、管理者は心強く思っています。コロナ対策として集団指導はズームとなり、すでに履修済です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしているので、原則行っていない。3ヶ月に一度身体拘束廃止委員会を開催し、振り返りやその時ある問題、身体拘束をしない取り組みについて話し合いをし、ミーティング時に他の職員に報告をしたり、身体拘束をしないケアについて勉強会を開いている。	四半期毎に身体拘束廃止委員会を開催、内容は委員以外の職員も書面供覧しています。委員会では禁止となる行為や言葉についてチェックシートをもとに話し合っています。年2回の研修、新任職員への研修は実施はあるも、記録書類の整備が遅れています。	身体的拘束等適正化に関する取組みは指針通りにおこなわれていますが、実施が明らかになるよう記録が整理されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、気になったことについては、お互いに声をかけあったり、管理者に報告するなどをし、未然に防ぐよう職員全体で取り組んでいる。研修があるときにはできる限り参加してもらうよう促している。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中で、知識や認識の差があることは否めない。現在後見人制度の利用のご提案をさせて頂いている方もいる。ミーティング時に、オンライン研修の資料を配布し、十分ではないが学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には十分な説明を行い、不安や疑問に思うことを解消していただいたうえで契約していただいている。ご家族様からのお問い合わせには、迅速に対応し、安心してご利用いただけるよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、利用者様の意見や希望を聞き取るようにしている。ご家族様の意見や要望は、面会時や担当者会議、電話でのご連絡時に伺うようにしている。できる限りご意向に沿えるよう取り組んでいる。	不定期だった事業所通信「ほほえみだより」は確実に月次発行となり、家族からは「楽しそうな様子が写真でわかる」「誕生日を祝っていただき～」と感想が都度寄せられ、喜ばれていることを実感しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はミーティング時や日々の話から、吸い上げるようにしている。新人職員であっても意見や提案ができる様心掛けている。反映したいことは代表に話を持っていき、実現できる様努めている。	いい意味でママ友感覚の文化があり、シフト交換に協力的で、係りは決めずとも工作、料理、掃除と各々得意な事を中心に取組むことが自然にできています。毎月のミーティングも臆する人はなく、活気があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や適性を把握したうえで、やりがいがある様声掛けをしたり、働きやすい職場づくりを心がけている。またキャリアパス基準により、次の目標を持ちやすく向上心を持って働ける様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や力量に合わせた研修に参加するよう促している。現在外部研修がほとんど行われていないので、ミーティング時に簡単な勉強会を開く事がある。また日々の関りの中で、技術を学ぶ場も設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模ホーム部会で毎年行われる合同運動会やスタッフ交流会には、ほとんどの職員が積極的に参加しており、他事業所との情報交換の場となっている。親しくなり互いの事業所を訪問することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関し、心配や不安のある方が多いので、ご本人様の思いをしっかり聞き取り安心して過ごしていただける様、初期の関りは特に大事にしている。声に出して言うことが難しい方は、日々の関りや生活歴などからヒントを得られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安なことなどを、じっくり聞くようにしている。不安なことは取りのぞいて安心して利用いただけるようにしている。何かあればいつでも遠慮なく言っていただけるよう声掛けをし、初期だけでなく継続して気持ちを伝えていただける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談の際に、担当のケアマネや相談員、ご家族からお話をうかがい、他のサービス利用が望ましいと思った時には、そちらの提案も行うようにしている。入居後も同様で、状態や必要とする支援に変化があった時には、それを見極め最も合ったサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する人生の先輩として、日常生活のアドバイスをいただいたり、職員の相談にのっていただいている。時には職員を労って下さったり、子供のようにかわいがっていただくこともあり、一緒に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えていく者同士という認識を持っている。ご本人様とご家族様がいい関係をずっと保っていただけるよう、情報を共有、交換しながら支えあう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問は多くはないが、面会に来ていただいた時には、居室に案内し気兼ねなく過ごしていただいている。時折知人と外出されることもあるが、ご家族の許可のもと行っている。お帰りの際にはまたいらしていただける様お声がけをしている。	趣味だったかぎ針編みをしたり、花が好きだった人のためにプランターで季節のものを育てるなど、馴染みのものに触れる環境を整えているためか、(コロナ禍で)家族に会えずとも不穏になる人はいません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士という関係ではなく、一緒に生活している者同士という気持ちを自然と皆様が持ってくださっている。互いにできないことを助け合ったり、困っている方を見かけると職員を呼んでくれることもある。職員も利用者様の性格を把握し、いい関係作りができる様サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここでのサービス終了は、入院や医療がメインとなる場合やお亡くなりになるケースが多い。入院した後も相談を受けることもあり、次のサービス利用につなげたケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りと会話の中から聞き取るように努めている。聞き取りが困難な場合はご家族様からの情報や生活歴から推測したり、ご本人様をよく観察し小さなサインを見落とさない様に行っている。	意思疎通が困難な人が、まばたき＝「いいよ」、目を閉じたまま・触った手を叩く＝「イヤだよ」と、非言語の意思表示があることに気づき、口頭ではあるものの、新たな発見を飲み伝えあい、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、わからないことはご家族様に伺ったり、以前のケアマネジャーに情報提供をお願いすることもある。その方を知ること、よりよいサービスにつなげられるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態観察は常に行っている。一人ひとり違うので、日々の気づきや発見は職員間で共有し、全職員がほぼ同じタイミングで情報の追加や更新が行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の期間にとらわれず、ご本人様の心身状態の変化に応じて作り直している。その際にはご本人様やご家族様、主治医など必要な方との話し合いを行い、介護職員にも意見を聞き、その方の現状にあったケアを提供できるよう努めている。	介護支援専門員は隣りにある同法人の小規模多機能事業所の配置(市の了承済)で、管理者が計画作成担当者として、係る各書面を作成しており、いずれも職員・家族の意見反映を前提としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入している。特記事項や気づきや工夫は口頭で伝えたり、申し送りノートを利用し情報の共有をしている。困難なことへの工夫は常に行い、効果的だった方法は伝達し、全職員が実践できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に変化が見られた時には迅速に介護計画の見直しを行っている。その際にはご家族様や必要関係者と話し、その時々ニーズを確認し、それに合わせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様、民生委員様をはじめ、近隣の方々に地域住民として受け入れていただいている。寄り合い処では事業所ではできない様々なイベントに参加させていただき、利用様がとても生き生きしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた病院に行かれる方や、こちらの協力医療機関の定期的な往診を受けられる方がいる。認知症の進行や家族の都合により、24時間対応してくれる協力医療機関に切り替える方が多い。事業所と医療機関の連携は取れている。	訪問診療をおこなう協力医に8名が変更しています。予め「先生への質問・確認事項」をFAXし、訪問診療時における指示をこれに記録、職員間で共有します。家族の通院介助には血圧手帳を持参してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、代表が看護師のため、何かの時には相談している。場合によっては、協力医療機関に相談し適切な指示をいただいたり、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に同行することが多い。同行しないときでも、病院に伺い担当看護師と話をするようにしている。また病院への情報提供は迅速に行っている。必要に応じてご家族様と会議に参加することもあり、退院後のサポートもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご意向を伺っているが、その段階ではまだ決まっていない方が多い。時期を見たり、ご本人様の状態の変化に応じて再度確認している。また、看取りに入られた時には、介護記録とは別に、その方のケアに沿った記録用紙を用いて、全職員で現状把握に努めている。	契約時には、「終末期における看取り介護について」に基づき説明、看護師配置はありませんが、24時間オンコールの協力医と、看護師資格をもつ代表者の助言、「いつでも跳んで来るから」という管理者の言葉が支えとなり、職員は戸惑うことなく取組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員で把握している。ミーティング時に研修や再確認を行い、全職員に浸透するよう心掛けている。消防署による応急処置の訓練は、今年はコロナの影響できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルは見直しを行い、より詳しいものを作成している。全職員が各々身につくようマニュアルを読んだり、ミーティング時に再確認を行うようにしている。また地域の方のお力を借りられるようお願いしており、回覧板にて周知していた。	法定訓練2回は実施できています。自助共助で災害弱者を守ることを信念とする区長が「12班は、ほほえみという施設が～」と記した文書を回覧版で回していただき、事業所でも地域に貢献したいとしています。	備蓄リストの作成を進めるとともに、地域住民の受け入れ方法や3日分の非常食献立を決め試食の日を設けるなど、より実践的な取組を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格や生活歴を把握し、その方に合った対応ができる様心掛けている。また話の内容次第ではプライバシーが保護できる様、別室や居室でお話するようにしている。言葉の選び方にも注意している。	肖像権は「写真使用についてのご案内」を追加して、ホームページをはじめ各種書面に使用する同意書を交わしています。生活では本人が気にしそうなときは「私でもそういう時があるよ」と同調の声がけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で決定、選択できる様に働きかけている。自己決定が難しい方には選択制の質問、自己決定ができる方には「何がいいですか」というような質問の仕方にし、ご本人様の希望をできるだけ引き出せるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活である為、すべてができていないわけではないが、なるべくその方の希望に沿った生活が送れる様に努めている。希望内容によっては、ご家族様に協力していただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご本人様に着たい洋服を選んで頂いている。整髪も櫛をもってできる方にはお任せしている。月に一度ボランティアの美容師さんがヘアカットをしてくださる「きれいになる日」があるが、この時ご自身で髪形を決める方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできることを見極めながら、下準備から調理、片付けと共に行っている。その中で、利用様から学ぶこともたくさんある。下準備の一環と	桃の節句のちらし寿司やお花見弁当、敬老の日の紅白小麦饅頭、出し巻卵に「寿」の焼き印も付けたおせちなど手をかけて作った献立にはとパッと表情が明るくなることから、その姿見たさに更に職員が精を出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし記録している。安全においしく召し上がっていただくように、食事形態も個人に合わせて変えている。水分についても十分な量が確保できる様こまめに補給し、必要に応じて記録している。持病や思考に応じて、水分の内容を変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。夜間の義歯の方は夜間の付けおきや、希望によっては歯科の往診をお願いする方もいる。できるだけ自歯でいられるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりのパターンや習慣を全職員で把握し、定時の声掛けにより、トイレでの排泄ができるよう努めている。変化があった時には迅速、柔軟に変更するようにしている。	おむつを使用しているも、便意があり座位が保てれば職員二人介助で、トイレでの排せつを旨としています。布パンツの失敗から、汚れた下着を隠すようになった人に、徐々にパッドを勧めて落ち着いた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて把握している、便秘にならない様、食事面で工夫したり、適度に運動していただくようにしている。便秘症の方には別の記録用紙を用意することで、早期対応ができる様心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的にご本人様の希望に沿うようにしているが、職員の配置やイベントなどにより、かなわないこともある。月に1度「銭湯の日」を設け、入浴剤や湯上りのコーヒー牛乳を楽しんでいただいている。また季節に応じてゆず湯、ヨモギ湯なども行っている。	入浴剤は3種類、ゆず、森林、ローズを備えています。「銭湯の日」のアイデアをもらって即、暖簾をつくって取り組んだところ好評で、今では月のミニイベントとして、「珈琲牛乳飲むよ」が合図となっている人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が気持ちよく取れる様、日中活発に過ごしていただくよう心掛けている。しかし日中起きていることだけを良いことと捉えず、適度な休息もとっていただくよう心掛けている。一人では寂しいという方は、皆さんの声が聞こえるリビング奥のソファにて、安心して休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態に合わせた服薬支援を行っている。どの方も飲み込むまでの確認をするよう取り組んでいる。薬の変更や注意事項については迅速に職員への伝達を行い把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみになるよう、季節に合ったイベント、外出、行事食などに取り組んでいます。また一人ひとりのできる事にあわせ、日々の生活の中に役割を持っていたりできるよう心掛けています。現在は状況と場所を見極め、気分転換になるような外出も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの希望には耳を傾け、その場にいる職員で話し合いをし、できるだけ「～したい」の実現に取り組んでいる。「～したい」は食事メニューやおやつ、散歩など日々の中にたくさんあり、聞き逃さないようにしている。ご家族様や地域の方と協力して外出することはまだないが、今後は考えていきたいと思う。	今年度はコロナ禍で外出行事は思うようにできていません。冬でも天気が良く職員配置が手厚い日には、できるだけ緩やかなコースを選び散歩に出かけていますが、健脚な利用者が「富士山を拝みたい」と坂道コースをチャレンジする日もあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談のもと、こちらでお預かりし管理している。ご自身で選びお、お金を支払うことを大切に、機会があるときは買い物に同行し、職員と買い物をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で、いつでも連絡できるようになっている。夏には暑中見舞いを個々に作成し、ご家族様にお出した。お返事のはがきが届く方もいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔で居心地の良い空間づくりに努めている。また、安全な動線の確保や、刺激となるものの排除には気をつけている。また庭で咲いている花を生けたり、壁画やモビールを飾ることで季節を感じられるよう心掛けている。	ソファコーナーはおやつ作り、絞り染めなど一年間取組んできた写真で埋め尽くされ、アルバムの中にいるようです。清掃は時間を設けず、テーブル、コンタクトポイントや床など都度、次亜塩素酸で拭き取って清潔な空間を心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング奥にはソファスペースもあり、お互いに誘い合ってテレビやお茶を楽しめるようになっている。またベランダに出て日光浴をされる方もいるのでベンチを用意し居ている。共用でありながら、好きな居場所が作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた馴染みのものをお持ちいただくようお願いしている。こちらのものをご用意することもあるが、その際にはなるべく好みに合うものを提供している。その方に合った居室づくりを一緒に行っている。	読書好きの人は本棚に数冊残し、ベッド回りに山積みして本に埋もれるように生活しています。食事の以外は居室で過ごし「一人の時間がいい」と夢中で読みふけているので、音などに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりやエレベーターも設置されているため、個々が持っている力を発揮しやすく、自立の幅を増やすことができていると思う。日々の気づきの中から、安全パーなどの増設がされることもある。		